

白石市制施行七十周年記念事業

# 碧水園能

## 喜多流公演

能 藤戸

佐々木多門

狂言

鐘の音

石田 幸雄

令和7年2月8日(土) 開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

白石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂

主催 碧水園能に親しむ会実行委員会

後援 白石市、白石市教育委員会

協賛 白石市文化体育振興財団

白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇二三四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町二丁目番三号

入場料

正面補助席、脇正面指定席 6,500円

脇正面補助席 6,000円

自由席 5,500円

(当日午前11時30分、整理券を配布)

学生席 3,500円

(中学生以下無料、先着10名)

チケット取扱所

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※令和6年12月1日(日) 午前9時発売開始

電話受付 午前10時開始

# 碧水園能 喜多流公演 番組

演目のお話し

佐藤 寛泰

開演 一・三〇

仕舞 和布刈

谷 友矩

地謡

佐藤 陽  
友枝 真也  
内田 成信  
塩津 圭介

狂言 鐘の音

太郎冠者 石田 幸雄

主人 福田 成生

後見 破石 澄元

休憩十分

後シテ・漁夫の霊  
前シテ・漁夫の母

佐々木 多門

能 藤

戸

ワキ・佐々木盛綱 舘田 善博

ワキツレ・従者 梅村 昌功

間狂言・盛綱の手下 深田 博治

後見

塩津 哲生  
栗谷 浩之

地謡

佐藤 陽 大島 輝久  
塩津 圭介 内田 成信  
友枝 真也 狩野 了一  
佐藤 寛泰 金子 敬一郎

終演予定 三・五〇頃

仕舞 和布刈(めかり)

海底の和布海邊を神前に供える神事において、浪を追い退けて神官を助ける龍神の舞。

狂言 鐘の音(かねのね)

主人は息子の元服に、黄金作りの太刀を差させてやるかと考え、金の値段を聞きに太郎冠者を鎌倉へ遣わします。ところが、「金かねの値」を、寺の鐘の音と思い込んだ太郎冠者。寺々を回って帰宅すると、主人の前で鐘の音を説明するのですが・・・

能 藤戸(ふじと)

備前国(現在の岡山県)児島の合戦において、先陣の功があった源氏の武将・佐々木盛綱(ワキ)は、その児島の新領主に任じられました。国入りの日を迎えた盛綱のもとへ、在所の女(前シテ)があらわれ、訴訟があるといって近付いてきます。合戦のおりに、海の渡りができる藤戸の浅瀬を盛綱に教えたにもかかわらず、口封じのために無惨に殺された漁夫は、我が息子であるのだ、子の命を返してくれと追ります。悲痛の涙を流して命懸けで訴える母の哀れさに、盛綱は心を動かし、その時の事件の様子を話し聞かせます。子の追善供養を約束して母を慰め、介添え(間狂言)をつけて家に帰します。

やがて盛綱が供養の法要をしていると、漁夫の霊(後シテ)が姿をあらわし、自分が殺された有りさまを語りだします。怨霊となって祟るうとしたが、いま追善の功德で成仏することができたという、亡魂は手を合わせて消え失せるのでした。

『吾妻鏡』や『平家物語』の記事に、劇的脚色を加えて能の形式に仕上げた名曲です。

石田幸雄(和泉流狂言方)

一九四九年生。野村万作に師事。数多くの優れた舞台歴を持つ、万作一門の重鎮的存在。二〇〇六年芸術祭大賞受賞。二〇一一年親世寿夫記念法政大能楽賞を受賞。

佐々木多門

一九七二年生。喜多流職分。職分佐々木宗生の長男。職分塩津哲生に師事。喜多流の伝統が続く白石の地。平成八年より碧水園の能公演を勤めている。

